

令和7年度自己評価結果公表シート

作成 幼保連携型認定こども園 正蓮寺こども園

1. 本園の教育目標

仏教精神による「生命尊重、報恩感謝、和合精進」を建学の精神・基本理念に、保護者や地域と力を合わせて児童の発達を支援する。

教育・保育の目標として

- ① いのちを大切にする子 ②ありがとう・すみませんと言える子 ③お友だちとなかよく、何事もがんばる子を育てる

2. 本年度、重点的に取り組む目標・計画

幼保連携型認定こども園として、保護者の就労の有無にかかわらず幼児教育・保育の提供をめざす。教職員の共通理解をはかり、教育・保育の質を高めるとともに、保護者、地域のニーズを具体的に把握し、本園としてのビジョンを明確化することによって、園が担うべき役割について検討する。また、新たな幼保連携型認定こども園教育保育要領の示す方向性に従い、園として社会の国際化、グローバル化に対応できる人格を形成するための初期段階として、引き続き、就学前の時期の大切さを職員全体が認識することを重点目標とする。

3. 自己評価の趣旨・方法・課題

自らの保育を反省、検証することにより、より質の高い保育を目指すための取り組みとして実施している。各職員が日ごろの保育の反省、検証を毎月ごとに施設長に報告し課題を見定めるとともに、関係者に公表することにより多くの方々の意見を取り入れていく。

4. 評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

幼保連携型認定こども園として 15 年を経過した。従来の保育制度ではカバーできなかった保育を必要とするこどもやその保護者のための施設としてスタート以来、制度変更や保護者のニーズの変化の中、職員全員が一体となって新しい施設の在り方を模索してきた。人口減少社会を迎える中で、地域の中で私たちの法人・施設がニーズに合致した活動ができているかどうか、関係者の意見を徴収しその結果を PDCA サイクルで検証実施しながら進めていく。自己評価を実施するにあたっては、各職員が日ごろ感じていることと、園の理念やこども園として地域でのあるべき姿を比較検討しながら深く考察していく必要がある。そのためには、職員自らが園での委員会活動や各種研修の機会を通じて、自己啓発に積極的に取り組んでいくことが重要である。

5. 今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取組み方法
保育の計画性	従来から園の教育理念、教育目標の理解、認定こども園制度の理解、環境の構成にかかる項目の自己評価が低めに出る傾向がある。これまでも積極的に取り組んできた乳児保育、幼児教育、障害児保育、食育・アレルギー、保健衛生・安全対策、保護者支援・子育て支援の6つの委員会活動を今後ともさらに充実させ、それぞれの課題を研究していく。すべての委員会の研究成果を職員全体で共有していくための研修発表会を実施し、さらなる地域子育て支援策を検討していく。また、令和5年に制定された「こども基本法」の精神にのっとり、こどもの権利を尊重し、こどもの意見をくみ取ることのできる保育教諭の力量の向上を引き続き図っていく。また令和10年度に予定されている新幼保連携型教育保育要領がまとも次第、1年間をかけて「遊びこむこと」を主題に、新しい保育の在り方を研究していく。
研修と研究	今年度もキャリアアップ研修を中心とした園外研修に積極的に参加し、引き続き園内での委員会において各課題について議論を行い、リーダー職員の指導のもと、各自が課題を研究してきた。 さらに少子社会における保護者の育児不安にどのように対応していくのかを職員自ら意見を交わしながら、日常の保育においては、新幼保連携型認定こども園教育・保育要領に従いつつ、こどもの育ちや周産期の保護者支援等を実施していきたい。新しい要領の内容をいち早く理解し、園の保育に取り込んでいく。

6. 財務状況

内部監査に加え、公認会計士による外部監査を実施し、ともに適正に運営されていると認められている。
引き続き、法人全体として進展する少子化に備えた財務体制を強化していきたい。